

パスファインダー作成の取り組み

－司書課程「情報サービス演習」における実践報告－

斎 藤 直 人

1. はじめに

本稿では、本学にて開講している司書課程「情報サービス演習」での、学生によるパスファインダー作成についての実践報告である。

主な内容は、①パスファインダーの概説、②「情報サービス演習」でのパスファインダー作成の取り組み、③学生の成果物であるパスファインダーを例示した。

2. パスファインダーとは

近年、公共図書館で設置されつつあるパスファインダーは、一体どのようなものを指すのだろうか。『図書館ハンドブック』によると「パスファインダ(pathfinder)とは、ある主題について関連する資料・入手方法とともにリストアップしたものであり、一般にリーフレット形式でまとめられる」¹と内容と構造について概説してある。また、パスファインダーの目的について、愛知淑徳大学図書館インターネット情報資源担当編『パスファインダー・L C S H・メタデータの理解と実践』²では、以下7点が紹介されている。

1. 入門的な情報を入手するためのチェックリストである
2. 様々なタイプの情報資源を提供する
3. 特定のトピックに焦点を当てたものである
4. 文献探索の初期段階における利用者の手助けをするように工夫されている
5. 利用者の時間を節約する
6. 主題知識の乏しい利用者のためのガイドである
7. 網羅的な主題書誌ではない

要するに、①初学者を対象に、②特定主題(1つのテーマ)について、③関連する資料(本だけではなくWebサイトや視聴覚資料なども含む)とその入手方法、④リーフレットの形態(紹介する内容がコンパクトにまとめられている状態)のものと換言できるだろう。

管見ながら、筆者が公共図書館で配布されているパスファインダーを収集、比較したところ、図書館利用者の多様なニーズに対応しているパスファインダーが多数あった。例えば、レファレンス件数の多い郷土の歴史や地誌、文化などに加えて、ビジネス支援、児童・生徒向け(絵本やYA文学作品の紹介)など多岐にわたっている。またそれらを外国語で作成されたものもあった。

その一方で、諸資料の羅列に終始しており、パスファインダーではなくブックリストと化しているものも散見された。

3. 司書課程におけるパスファインダーの位置付け

文部科学相の諮問機関であった「これからの図書館の在り方検討協力者会議」³は、「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について」(報告)(2009(平成21)年)にて、司書資格取得に必要な必修・選択科目の考え方を示した。

そのなかで、「情報サービス論」および「情報サービス演習」に、パスファインダーに関する記述がある。以下、その2科目の紹介を行う。

2 図書館サービスに関する科目(4科目8単位)

・「情報サービス論」(2単位)

図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス、情報検索サービス等のサービス方法、参考図書・データベース等の情報源、図書館利用教育、発信型情報サービス等の新しいサービスについて解説する。

・主な講義内容

1) 情報社会と図書館の情報サービス

2) 図書館における情報サービスの意義と種類(レファレンスサービス、レフェラルサービス、カレントアウェアネスサービス、読書相談、利用案内等)

3) レファレンスサービスの理論(利用者の情報行動、レファレンスプロセス、事例の活用、組織と担当者、サービスの評価等)

- 4)レファレンスサービスの実際(レファレンスサービスの体制づくり・実施・普及、現状と問題点等
- 5)情報検索サービスの理論と方法
- 6)各種情報源の特質と利用法
- 7)各種情報源の解説と評価(参考図書、ネットワーク情報資源等を含む)
- 8)各種情報源の組織化(二次資料の作成、情報発信を含む)
- 9)発信型情報サービスの意義と方法
- 10)図書館利用教育(情報リテラシーの育成を含む)

※下線筆者による

上記のとおり「情報サービス論」では、各種公共図書館サービスを学習する。その中でも、「9)発信型情報サービスの意義と方法」として、パスファインダーの意義や役割、利用実態などを学習することが可能だ。学生は、同科目にて学んだ理論をもとに「情報サービス演習」を受講する。「情報サービス演習」の概要および授業内容は下記のとおりである。

・「情報サービス演習」(2単位)

情報サービスの設計から評価に至る各種の業務、利用者の質問に対するレファレンスサービスと情報検索サービス、積極的な発信型情報サービスの演習を通して、実践的な能力を養成する。

・主な演習内容

- 1)情報サービスの設計(レファレンスサービスの体制づくりを含む)
- 2)レファレンスコレクションの整備
- 3)レファレンスインタビューの技法と実際
- 4)情報検索の技法と実際(各種データベースの検索演習や電子ジャーナルの活用)
- 5)質問に対する検索と回答(質問の分析と情報源の選択を含む)
- 6)発信型情報サービスの実際(パスファインダーの作成を含む)
- 7)情報サービスの評価(レファレンス事例の作成・評価を含む)

※下線筆者による

このように、同演習にも「6）発信型情報サービスの実践（パスファインダーの作成を含む）」にて、パスファインダーが位置付けられている。

4. 学生によるパスファインダー作成の取り組み

本学では、2年前期「情報サービス演習Ⅰ」、後期「情報サービス演習Ⅱ」を開講している。前者では、各種データベースを活用しながらレファレンスサービスを実践する。後者では、レファレンスブックの紹介および調査研究、パスファインダー作成、附属図書館の蔵書を用いたレファレンスサービスを展開している。

それでは、パスファインダーの作成について概説すると、1コマで①パスファインダーの意義と目的、②公共図書館にて設置されている各種パスファインダーの紹介、③本学附属図書館に寄せられるレファレンス事例の傾向について指導を行う。その後、4コマ程度を用いて、レファレンスの多いテーマのパスファインダーをグループで作成している。

① 図書館ニーズの把握

本学は、幼児教育学科および総合文化学科の2学科をもつ。両学科にて、卒業研究やレポート課題、学習などでレファレンスサービスの多いテーマを附属図書館司書より教示していただき、パスファインダーのテーマとした。

・附属図書館に寄せられるレファレンスサービス例

長野(上田)、保育、幼児、児童、絵本、心理、教育、福祉、健康、ジェンダー、一人暮らし(料理レシピ、節約術など含む)、映画、日本語(方言、日本語教育含む)、文学に関する資料など

② パスファインダーグループ作成

石狩管内高等学校図書館 司書業務担当者研究会『パスファインダーを作ろう』⁴を参考資料として提示して、以下10項目を盛り込んだパスファインダーの作成を指示した。

① 制作年・科目名

② タイトル

③ パスファインダーの説明

- ④ キーワード(シソーラスや件名標目、レファレンスブックより選ぶ)
- ⑤ テーマの理解(記載資料の特徴や内容、利用者へのメッセージなど)
- ⑥ 書誌情報(所蔵図書の表紙写真・著者名・書名・出版社・出版年・I S B N)
- ⑦ 資料の説明
- ⑧ 参考Webページ
- ⑨ 編集後記
- ⑩ 作成者名

初校は、授業担当者および附属図書館司書より添削を行う。その後、完成したパスファインダーを貸出カウンター近くの記載台に設置している。

5. まとめ

司書課程の学生によるパスファインダー作成は、発信型情報サービスの実際を学ぶことに適しているだろう。なぜならば、この取り組みによって①附属図書館のニーズを把握することができる。また、②パスファインダーの意義や目的について、作成過程をとおして学ぶことができる。③書誌に関する学習になる。④学生同士の協同(集団作り)にもなる。この取り組みが、他大学の司書課程の一助になることを期待したい。

脚注

¹『図書館ハンドブック』第6版補訂版 日本図書館協会 2014年 p.95

²愛知淑徳大学図書館インターネット情報資源担当 編『パスファインダー・L C S H・メタデータの理解と実践』 紀伊国屋書店 2005年 p.3

³これからの図書館の在り方検討協力者会議「司書資格取得のために大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について(報告)」 2009年

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2009/09/16/1243331_2.pdf (最終アクセス日 2020年1月23日)

⁴石狩管内高等学校図書館 司書業務担当者研究会『パスファインダーを作ろう』 全国学校図書館協議会 2005年 p.15～26

※参考文献 鹿島みづき『パスファインダー作成法』 樹村房 2016年

インターネット

絵本に関するホームページをいくつかご紹介します。

○こどもの本（日本児童図書出版協会）

<http://www.kodomo.gr.jp/>

○絵本の選びかたガイド（福音館書店）

<https://www.fukuinkan.co.jp/bookguide/>

参考に見てね！



編集後記

わからないことがあったらカウンターで司書の方に聞いてみましょう。

絵本は読むだけでなく、お菓子作りなど、楽しむこともできます。ぜひ参考にしてみてください。



絵本に関する資料

2019年1月17日

パスファインダーとは、あるトピックスについて調べるために役立つ資料を紹介した一枚のチラシのことです。このパスファインダーでは絵本に関する資料をいくつか紹介します。



絵本に関する資料を探すときのキーワード

絵本、えほん、読み聞かせ、児童図書、育児、図書館資料、おはなし、児童文学 など

テーマの理解

絵本は乳幼児から小学生低学年くらいまでの子どもの成長に沿って読まれます。大人も一緒に楽しむために、絵本選びに役立つ本をご紹介します。

◆絵本を探してみよう

『絵本のある暮らし プーさん文庫が選んだ
456冊』（吉備人出版 1999.8.31）
P230 019.53/E 35 ISBN 4-906577-35-0



月や行事ごとの絵本が紹介されています。

テーマ別に絵本だけでなく図鑑も載っています。絵本を探す大人の方におすすめ。

『新版 保育と絵本～発達の道すじにそった絵本の選び方』
(株式会社エイデル研究所 2018.6.15)
P229 376.15/Ta 71 ISBN 978-4-87168-618-1



子どもの年齢別に絵本をリストアップ。0～6歳までの子どもたちに合った絵本を成長に合わせて紹介しています。絵本の内容についても詳しく解説されています。絵本を探す大人の向け。

『月刊 MOE 第40巻12号』
(白泉社 2018.11.2)



絵本の特集がよく組まれる雑誌です。特に作家自身についての記事があります。最近はやりの絵本を知りたいときはこんな雑誌を見るのもありです。定価は890円。毎月一回3日発売です。

◆絵本を読もう

『松谷みよ子 あかちゃんの本
いないいないばあ』（童心社 1967.4.5）
P20 E 91/Ma88 ISBN 978-4494001019

『くだもの』（福音館書店 1981.10.20）
P24 E 91/H 69 ISBN 978-4834008531
この二冊はブックスタートによく使われる絵本です。



◆つくってみよう

『夢の名作レシピ 2
絵本に出てくるお菓子とごはん』
(株式会社 日本図書センター 2015.1.25)
P47 596/Y 97/2 SBN 978-4-284-20286-2

みんなが知っている絵本の名作の中のお菓子やご飯の作り方が載っています！『はらぺこあむし』や『おぼけのてんぶら』など、ほか15の作品から、レシピが出ています。子ども向けの料理の基本も載っています。子どもと大人と一緒に作れるおいしいレシピです。



押井守著『アニメは、いかに夢を見るか』
(岩波書店 2008 年)

778.77/076 ISBN 978-4-00-022046-0



日本の映画監督である押井守監督がアニメ映画「スカイ・クロラ」の制作するにあたってどのような思いでこの作品の制作にのぞんだか。また、

アニメ映画が人々に伝えたいことは何か、この映画を通して若者たちに「真実の希望」を伝えたいなどアニメ映画「スカイ・クロラ」の制作全記録です。アニメ映画の魅力を知っていただくきっかけになる本です。

黒沢清 他著

『日本映画は生きている：第一巻』

日本映画は生きている』(岩波書店 2010 年)

778.21/N 77 ISBN 978-4-00-028391-5



グローバル化や映像技術の発達により日々変化している日本映画。この本は、そもそも日本映画とは何なのか、日本映画が持つ問題や、

その可能性について問い直しています。

編集後記

映画は鑑賞するだけでなく、裏側を知ることにより楽しめます。
わからないことがあったら司書になんでも聞いてみて下さい。

2019 年度 総文 2 年
「情報サービス演習」パスファインダー

映画に関する資料

パスファインダーとは、あるトピックスを調べるために役立つ資料を一枚のチラシに分かりやすく紹介したものです。

ここでは映画に関する資料を紹介します。

映画に関する資料を探すときのキーワード

映画・映像・アニメ・ディズニー・ジブリ・邦画・洋画・キネマ・シネマ・クリエーターなど

テーマの理解

映画は娯楽であると同時に、教育に役立つものまで幅広くあります。ここでは映画についての論文を作成する際に役立つための資料を紹介します。

岩本憲児 [ほか] 編集委員編『世界映画大事典』
(日本図書センター 2008 年)

778/Se 22 ISBN 978-4-2842-0084-4



映画の辞書として使える本です。人名、題名、事項の索引があるので、知りたいことを多方面から調べることができます。

ディズニーファン編集部編『ディズニーアニメーション大全集 新版』

(株式会社講談社 2014 年)

778.77/D 78 ISBN 978-4-0632-4029-0



ディズニーアニメーションのすべてを歴史とともに紹介しています。130p からの作品データは原作、監督、アニメーター、楽曲、声優など作品ごとに載っているので論文作りに活用できます。

スティーヴン・キャンヴァリア著 仲田由美子・山川純子訳『世界アニメーション歴史事典』(ゆまに書房 2012 年)

778.77/C 27 ISBN 978-4-8433-3900-8



自分では選ぶことがなかった映画についての解説や、歴史などを分かりやすく説明した事典です。年代順にも並んでいるので、色々な発見もあり、見ていて楽しい本です。

『キネマ旬報 ベスト・テン 90 回全史 1924 → 2016』(キネマ旬報社 2017 年)

778.2/Ki 43 ISBN 978-4-87376-847-2



様々な映画を紹介する雑誌「キネマ旬報」が、大正 10 年から続く国内外の映画はもちろん、娯楽・芸術的に優れた映画も紹介しています。

ウォーレン・バックランド著 前田茂・要真理子訳『フィルムスタディーズ入門』

(晃洋書房 2007 年)

788/B 82 ISBN 978-4-7710-1858-7



映画をいかに美しく見せるか、演出やセットデザイン、編集などとても細かく書いてあります。ジャンルによって技法の違いも詳しく書かれています。

村山匡一郎編『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』(フィルムアート社 2013 年)

778.2/E 37 ISBN 978-4-8459-1307-7



映画の歴史に関わる重要な人物や出来事などを幅広く取り上げた映画事典です。映画をもっと深く、もっと面白く観る・学ぶための本です。

杉田俊介著『宮崎駿論 神々と子どもたちの物語』(NHK 出版 2014 年)

778.77/Mi 88 ISBN 978-4-14-091215-7



宮崎駿監督が描き続けたものは何なのかなど、物語に埋め込まれた想いの詳細をたどり、浮き彫りにする渾身の作家論です。

